

OMF インターナショナル日本委員会
〒272-0035 千葉県市川市新田 1-16-14
Tel. 047-324-3286 Fax. 047-324-3213
Email: hc@omf.or.jp
HP: omf.org/jp/ 郵便振替 00100-0-615052



地の果てのすべての者が私たちの神の救いを見る。(イザヤ 52:10)

新人宣教師の証し

待機宣教師 坂西信悟さかにし しんご

神の宣教

クリスチャンホームに生まれ育ち、素直にイエスさまを信じるようになった私は、小学校四年生のときに受洗へと導かれました。高校生の頃、信仰を持って生きようとしてつも、みことばに従えない自分自身の罪の深さを知り、悔い改める経験を通し、主から受けた救いがどれほど素晴らしいものであったかを知りました。その後も自らの罪を知らされ、十字架の愛の大きさを知ることになり返しながら、主とともに歩む幸いを味わっています。

私が初めて海外宣教に関心を抱くようになったのは、高校生の時にバイブルキャンプの中でアフリカの飢餓の現状の話聞いたことがきっかけでした。その後、ウィクリフの教育宣教師との出会いから、当時なりたかった保育士の仕事が海外でも用いることができる

かもしれないと思いき、宣教師として働きたいと漠然と考えようになりました。

大学在学中、いくつかの国へ短期宣教に行きながら、宣教師に導かれているかどうかを主に尋ね求めています。行く先々で出会う人々とのコ



坂西信悟です。お祈りをどうぞよろしく
お願いいたします

ミニケーションは私にとって心踊るもので、宣教師に向いているのではないかと感じるようになり、教育学を学んでいたので教員免許を取得し、宣教の自由のない国に入社して働く可能性を考えていました。しかし、大学を卒業す

る一年前に訪れたブラジルで、私の思いが主の前に問われました。ある方と話をする中で、私の大きな間違いに気づかされたのです。その方は「日本に住むブラジル人のために働きたいけれど、どうしても行くことができないので祈っています」という話をしてくださりました。その方にとっては何気ない言葉でしたが、私には衝撃的でした。私は自分が宣教地に行くための祈りばかり考え、宣教地のために祈っていませんでした。主のために働くことと意気込んでいた私の心の奥にあったものは、自己満足や自己実現の思いであったことに気づかされたのです。私を通して働かれる「主」ではなく、主のために働くこととして「私」が中心にいたのでした。私は一度、宣教師になるということを手放し、「主が導かれるならばどこへでも」と祈るようになり、その後、不思議な導きで、生まれ育った横浜を出て大阪にある幼稚園に就職し、福音交友会昭和聖書教会に集うようになりました。

遣している宣教師のために祈ることを大切にしていました。福音交友会は二組の宣教師を送り出しており、海外宣教の働き手を送り出す側として、ともに宣教の働きに仕えていくことがよく分かりました。海外宣教は教会の働きであり、祈りによって進められているという大切なことを、昭和聖書教会での教会生活を通して私は私に教えていただきました。

幼稚園で働きつつも、海外宣教の働きへの思いを持ち続けていた中、タンザニアで働かれています宣教師ご家族を訪問する機会が与えられました。出会ったタンザニア人牧師が福音の届いていない村に通い、伝道し、信じる人が起こされ、教会が始まっていく様子を垣間見せていただきました。その中で一つのみことばが思い出されました。「その後、主は別に七十二人を指名して、ご自分が行くつもりすべての町や場所に、先に二人ずつ遣わされた。」(ルカ十一)

特に、「主が行くつもりすべての町や場所」という言葉が、タンザニアで見た光景、ま

た聖書の様々な出来事と重なっていききました。この牧師が訪問していたこの村も主が行くつもりにしているところであり、主が福音を届けたい、救いたい人がいるところだったので。さらに、主が行くつもりにしているところへ、弟子たちが遣わされていることを間近で見るとき、私自身もこうして救いに導かれたのだと気づかされました。多くの方が私のために祈り、実際に顔と顔を合わせてみことばを伝え、関わってくださいました。主は私によく分かる言葉と方法でご自身を現してくださいました。それは主が私を愛し、私を救おうとしておられたからです。そして、今度は私がキリストの弟子として、主が行くつもりにしているところへと遣わされるのだと知りました。

メコン川流域に住む少数民族へ
メコン川流域に住む少数民族のために祈るようになったのは、二〇〇六年のOMF、ウィクリフ、KGGK共催のフィリピン宣教師視察旅行で、有澤達朗・たまみ宣教師夫妻と出会ったことがきっかけでした。ミ

エン族のことを細々と祈り続けていく中、主がメコン川流域に住む少数民族のところへ福音を届けようとしている熱心を感じようになりました。そして、実際に北タイのミエン族を訪問した際、祈りとともに宣教師を遣わすを通して、さらに主を深く知ることができると教えられました。

すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆とともに主を礼拝する(黙示録七・九、十)。その日を待ち望みつつ、この時代にあつて私たちは主の宣教の働きに仕えています。様々な宣教地があり様々な役割がある中、私はどの部分を担うことを通して主の宣教に仕えるのかを問いつつ、一つのみことばが心に留まりました。

主はこう考えられた。「わたしがいよいよと隠しておくべきだろうか。」(創世記十八・十七) 私がこれまでの歩みの中で見たこと、知ったこと、祈ってきたこと、それらはみな主が私に分ち合い、「わたしとともに仕えないか」と招いておら

れたのだと気づかされました。海外宣教への思いが高校時代に与えられたこと、それを一度手放す経験をしたこと、宣教のために祈るようになると教えられたこと、宣教は主の働きであると教えられたこと。これまでのプロセスを通して、私は主に海外宣教という主の働きをともに担うようになると導いておられたのだと確信しました。メコンフィールドの中の派遣先の国、民族は主の導きを祈っている段階です。しかし、どこに遣わされたとしても、そこで出会う人とともに主を知りたいと願っています。そして、彼らとともに主が行くつもりにしておられるところへとさらに遣わされていきたいのです。

ともに呼び出されて

坂西信悟とともに歩む会代表、
福音交友会・昭和聖書教会
牧師代行 安西幸男

昭和聖書教会海外宣教部が坂西信悟師の海外宣教への主の呼び出しに呼応し、祈り支えが諸教会に広がっていくようにと新たに支える会を設

立したのが二〇一六年九月。二〇一九年に福音交友会派遣宣教師となり、約一年の語学留学の後、OMF待機宣教師として皆様に紹介されるまでになりました。この四年間を思うと感慨深いことです。支える会は帯を締め直す思いで「坂西信悟とともに歩む会」と改称いたしました。主はただ働き人だけ呼び出されたりはしません。あなたもここに加わりなさいと周囲を呼び出されま

新しいミニストーリー

在英邦人ディアスポラ伝道

相馬裕美

イギリスのロックダウンは徐々に緩和されてきています。今はまだ屋内での集会は許可されていませんが、屋外で六人まで会えるようになりました。夏休み前、なんとなく「移動図書館みたいのやれるよね」

と思っていると、近くに住む日本人から、近いうちにバザーに日本語の本を出す予定なのだけど、何冊かいらはないかという連絡がありました。まだ神様に祈ってさえいなかったのに、神様は私の必要を知っているのだなと思いつつ、彼女の家に本を頂きに行きました。段ボールにかわいい柄の包装紙



新しいミニストーリー「移動図書館開館」

を貼って、本を入れて車のトランクに「移動図書館」を作りました。さっそく近くに住んでいる日本人家族に連絡すると、ぞくぞく「注文」が入ります。本を触るときは使い捨て手袋をする、返ってきた本は七十二時間置いてから棚に戻すなど、「本」がウイルスの媒介になら

ないように細心の注意を払いながら開店しました。子供達が本を選んでいる間にお母さんとお話。一日に家族の予約にしているので、お母さん達ともゆっくり話ができます。新しい生活様式の時代に新しいミニストーリーが始まりました。

もう一つの新しいミニストーリーは、日本とイギリスを繋いだバイブルスタディです。二年前に帰国した方から「イギリスで裕美さんがやっているバイブルスタディに参加したい」とのメールが来ました。そのため、時間を午後に移動し、イギリス時間午後一時半、日本時間午後九時半のバイブルスタディが始まりました。どちらのミニストーリーも神様に頂いた新しいミニストーリー。これらの神様の導きが楽しみです。

OMF 韓国委員会

四十周年！

国際主事

菅家 庄一郎

容子

七月六日～十日まで、OMF 韓国委員会主催の韓国 O M

F 四十周年記念大会に出席しました。とはいっても、インターネットを通じ通訳を介しての参加でした。コロナウィルス感染拡大が懸念される中でしたが、参加者はみな守られたようです。

私は国際主事として最初に短く英語で挨拶しました。振り返れば多くの韓国人宣教師との交わりを通して励まされてきました。現在の韓国委員会の総主事は、かつてカンボジアで共に祈り合った同僚です。韓国は二万人以上の宣教師を世界に派遣する宣教大国です。しかし、その中で O M F 韓国委員会からの派遣宣教師の数は百人に届きません。

OMF に韓国人宣教師が少ない理由の一つはやはり英語です。韓国に多くある宣教団体のほとんどは英語ができなくても加入できますが、OMF は英語力が要求されるためです。大会中の若い韓国人宣教師によるパネル・ディスカッションは興味深いものでした。「OMF では若者と女性の声を聞いてくれる」「リーダーは権威主義的ではなく謙遜」「主に信

頼するという伝統がある」など。私はそのように歩んでいるかなと探られました。

また、OMF韓国委員会の次の四十年に向けて様々なヴィジョンが語られました。OMF韓国委員会の四十年の歩みを主に感謝し、主が続けて韓



OMF 韓国委員会・総主事のベドロ師とスナー師

国から主の器を東アジア宣教のために派遣してくださいるように祈りました。(庄一郎)

コロナ禍で家にいることが多くなり、青年たちとみ言葉の学びができないか、と思い祈り始めてしばらくした頃、教会の青年の一人から進路のことで

相談を受けました。就活をする中、日曜出勤について悩んでいた彼女は、クリスチャンホームで育ったけれど、親の信仰ではなく自分で信仰を受け取りたい、という願いを持っていました。その思いを背中を押され、青年の有志に声をかけたところ、十数名の方が参加され、五月下旬から金曜夜にズームで学びの時を持っています。観察、解釈、適用という基本的な聖書の読み方を紹介し、同じ聖書箇所を各自学んできて、ズームでグループに分かれ、教えられたことを分かち合い、それから全員でその分かち合いを通してさらに教えられたことを分かち合い、最後は会話の祈りをするという内容です。一人ひとりが神様のみ言葉を柔らかい心で受け取り、自分の生活に具体的に適用している姿に励まされ、分かち合いを通してさらに深く教えられ、チャレンジを受けている姿に感動を覚えます。キリストの弟子は主にあって共に成長していくのだなあ、と実感させられています。

もう一つ感謝なことは、学生

時代からの恩師マイリス先生のメッセージのポッドキャストを立ち上げることができたことです。先生が三十五年間の日本での働きを終えて帰国される前、先生の講義とメッセージが沢山入ったUSBを「是非用いてください」と託されていました。数週間前の日曜礼拝の説教で「みことばはつながれていない」と励まされ、九十九ものメッセージを一挙にアップし、ラインやメッセージヤー、フェイスブックで友人知人に紹介しましたら、多くの方から「聞いてみます！」と返信をいただきました。実際アップして三週間で六百回以上再生されており、マイリス先生も驚き喜び、「私の日本での懸命な働きは無駄でなかった。もう一度日本の宣教師に戻ったように感じます」とのこと。聖書の女性たち、聖書の大きなテーマなど、とても分かりやすく深い学びです。AnchorかSpotifyというアプリをインストールし「マイリス聖書講座」で検索すると出てきます。皆様も良かったらぜひ聞いてみてください。(容子)

教会に宣教師がやってきた

国内主事 伊藤めぐみ

七月中旬、私の出席している教会で長年支えてきた宣教師の教会訪問が実現しました。本来なら三月に来会予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期。宣教師の滞在地とこちらの教会の地域、両方の感染が収まった時を見計らった訪問となりました。それでも、教会側と宣教師側が何度も話し合い、行動の記録を提出し、前日まで様子を見ながらやつとのことで実現に至りました。

毎月のニュースレターでは知ることのできない、現地の働きや生活を知る貴重な機会とな



とうもろこしで作ったペルーの食べ物「ウーミタ」。ペルー人の姉妹の手料理

った今回の訪問。合計三回の礼拝や集会のご奉仕は、かなりハードスケジュールだったと思います。それでも、対象者に合わせてよく準備してくださったので、どれも興味を持って聞くことができました。

こどもたちの集会では、チームに分かれ現地クイズ大会。これは多くの宣教師がやっています。でも今回はやり方が違う。各チームでスマホからアプリをダウンロード。チームごとに答えを入力すると、スクリーンにチーム名や解答が映し出され、順位が楽しく入れ替わる。みんな「わー、きー」言いながら、まるでクイズ番組に出演しているかのようです。これはかなりのインパクトがあり、この後のメッセージでは子どもたちも興味をもって真剣に聞いていました。

個人的には、メッセージの中で語られたひとつの証しが今も心に残っています。それは子どもたちの祈りについて。大人の常識からすると「それは絶対無理」と思ってしまうことも、現地の子どもたちは純粹に祈り、しかも信じるというこ

と、そして神様はその祈りに答えるお方であるという証しでした。「家に置いていた金(きん)を盗んだ泥棒さんが、悪かったと思つて返しくくるように。」その祈りは見事に聞かれたそうです。

私は彼らの祈りにとても感動しました。しかし、それ以上に彼らと共に歩み、忍耐をもって愛し育てている、その宣教師の働きはなんと尊いことかと思われました。

「良い知らせを伝える人の足はなんと美しいことか」

オンラインV国祈り会

日本ディアスポラ伝道

横山 好江

V国祈り会はオンラインで続けられています。参加者は徐々にZOOMというオンライン会議ソフトウェアに慣れてきました。次回について決める際に、できれば対面だと願うのですが、コロナ禍の状況は一向に改善の気配は無く、次回九月十七日の祈り会もオンラインで行うことになりました。どなたでも参加していただけま

す。参加ご希望の旨、OMF事務所経由で私までお寄せください。歓迎いたします。

七月の祈り会には、久し振りの方や初参加の方を迎えることができ感謝しています。最後に写真を撮りましたのでご覧になってください。

初参加の永井敏夫先生は、ちょうどその週の日曜日、七月十二日に行われた月例のV語礼拝で説教奉仕をされ、様子を伺うことができました。V語礼拝は月一度、日曜午後



ZoomでのV国祈り会

いるV人宣教師が七月から一年間不在となり、留守のためにV国祈り会でも祈ってききました。留守の第一回礼拝で説教奉仕をされた永井先生から、日本人メッセンジャーや説教できるV人クリスチャンが立てられ、同じ場所でも礼拝を続けることになったと伺い、祈り会の一同で主に感謝しました。V人兄弟が約三十人集ったとのこと

祈り会のメンバーであるV人姉妹(大学院で学ぶ留学生)が日本語をV語に翻訳してくださったそうです。この姉妹が祈り会に参加された際、祈りの課題として「V語礼拝で奉仕できるように。多くの同胞がこの礼拝に参加できるように、救われる者が起こされるように」を挙げておられたのを思い起こし、祈りに答えてくださる主を賛美しました。

永井先生は日本福音同盟宣教委員会異文化宣教ネットワークで活動しておられます。このような形で、在留東アジア人伝道に共に携われることを主に感謝しています。

現地在住の大塩英人氏によ

る「V語聖書を日本の教会へ」の働きのサイト <http://www.vbj.org/> に最近の動向が掲載されています。どうぞご覧ください。

祈るバウンズ

タイミエン族 有澤 達朗
ありさわ たつろう

たまみ

コロナ読書。エドワード・マッケンドリー・バウンズの祈りに関する七冊を集めた合本『バウンズ、祈りを講ずる(仮題)』(フイテカー社、一九九七年。六百二十二ページ)を読みました。結果、毎朝三時四十五分ころに目が覚めるようになりました。告白すると、それ以前はそれほど早起きして祈っていないかったということです。

七冊の中で邦訳があるのは、OMF日本委員会初期に長く委員を務められた羽鳥純二師の訳による『祈りによる力』(メソジスト監督教会版は一九〇七年。いのちのことば社)。これは「説教者と祈祷」(マーシャル兄弟社版、一九〇二年)の改訂版で、後者の日本語は葛原定一訳により東洋宣教會から。

また『祈祷の目的』(レベル社版は一九二〇年。山崎善治訳、東洋宣教會)もあります。

邦訳されているかどうか確かめていない五冊の中から、心に留まった言葉をフイテカー版に依って引用してみます。

「我らの主は、祈りの第一の土台として、信頼ということを教えた。祈りの背景は信頼である。キリストご自身の働きは御父に対する絶対的信頼に基づいていた。信頼の的は神である」(「祈ることの必要性」二二四頁)。

「祈らない精神はきよい心からほど遠い。祈るときよい心は親密な関係にある。心のきよさは祈りの結果であり、祈りは、キリストの血潮によつてきよめられた心から当然の結果として、自然発露的に溢れ出て来るものである」(「祈りの可能性」二百頁)。

『私とともに力を尽くして、神に祈ってください』とのパウロの要請は、彼がどれほど祈りを重視していたかを物語る。これは遠慮がちな要請や、ちよつとした願ひではない。『力を尽くして』とは、激しい戦

い、勝たなければならぬ闘争、熾烈な戦闘という性格が祈りにはあることを示す。祈るキリスト者は兵士として生きるか死ぬかの戦いをしているのである」(「祈りに欠かせないもの」二九二頁)。アメリカ南北戦争時、南軍の従軍牧師(奴隷制度には反対だったが)として、おびただしい人数の死にゆく兵士のために祈った人の言葉です。

「牧師たちの説教の質は彼らの祈りの生活の質にかかっている。ものの条理に従うなら、どのように祈りの答えを得るかについての説教が、今日著しく少ないのは、牧師たちが祈りの答えを得るすべを知らないからだ」と結論付けられる」(「答えを獲得する祈り」四三六頁)。献身前に法律家だったバウンズは理論的に語ります。

「牧師が人々に話す能力は、彼が人々のことを神に向かつて話す能力によつて量られる。密室で祈りを耕さない牧師が、講壇で祈り取りをするのは決して無い」(「祈りという武器」五七一頁)。

最後に祈りと宣教の関係に

ついて。「最も注目すべき、また最も実を結んだ宣教師は傑出した祈りの人であった。デイヴィッド・リビングストン、ウイリアム・テイラー、アドニラム・ジャドソン、ヘンリー・マートイン、ハドソン・テラー……。何はさておき、全ての宣教師の最重要資格は祈りである。宣教師はまず第一に祈りの人でなければならぬ」(「祈りに欠かせないもの」三七二頁)。

あと四年、当たり前の、最低限度の、祈る宣教師となつて締め括りをさせていたきたい。(達朗)

前号でチェンマイミエン族宣教會について、十七年前に開拓をと書きましたが、正確には十九年前のことになりました。この年月でミエン語礼拝はタイ語に変わりました。開拓当時、学生だった会員たちは現在結婚し、クリスチャンホームを築き始めています。ミエン族同士の結婚もあれば、妻がミエン族で夫は北タイ人、夫がミエン族で妻はモン族、というケースも出て来たため、共通語のタイ語を使う教会になりました。

毎月十日、経済の祝福のためにお祈りを願ひいたします。

ミエン族と結婚し、この教会に出席している他部族の配偶者の方達から「ミエン語を習いたい」という要望が出ました。そればかりではありません。旧約聖書の原語である「ヘブル語を学びたい」という教会員も出てきました。そこで、七月四日以来毎週土曜日、主人は聖書ヘブル語クラス（七人）、ミエン語の新ローマ字による読み書きクラス（十三人）を教えています。毎回皆の熱心さに同伴受講する私は圧倒されています。同時に、楽しんで喜んで学んでいる姿に、ただただ神様をほめたたえます。一人も脱落せず、三〜四か月の一学期を終える事ができますようにお祈りください。（たまみ）

コロナ前後の カンボジアにて

カンボジア 今村 裕三
ひとみ

三月にOMFカンボジア代表の代理になったその週から、カンボジアは新型コロナウイルスへの対応に追われていましたが、これまで守られて市中で

の感染に至っていません。ところが、政府の水際対策でカンボジア入国がとても厳しい条件になってしまい、たまたま両親を見舞いに行った宣教師や本国奉仕が終了してもカンボジアにすぐに戻る事ができないメンバーが続出しました。厳しい条件としては、カンボジア到着七十二時間以内の新型コロナウイルスに感染していないという証明書、五百万円以上を保証する健康保険、そして新型コロナウイルスの検査や治療費のためにカンボジア入国時に三十万円強をカンボジアの銀行に預ける必要があります。もし、同じ飛行機に乗った乗客から新型コロナウイルス検査でウイルスが検出されると、その乗客全員は政府指定のホテルに二週間滞在しなければなりません。大雑把な計算では一人あたりウイルス検査費用や食費も含めて二週間滞在で十五万円くらいかかります。そのために多くの人が特に観光客はカンボジアを訪れません）がカンボジアに戻ってこない状況です。そのような中でこれまで五人のOMF宣教

師がカンボジアに戻ってくる事ができました。飛行機の同乗者にもウイルスが検出されなかったため、全員一泊のホテル代とウイルス検査費のみで済んでホッとしています。

そのような状況でカンボジアの観光業は大打撃で、職を失った人も多くいます。また、今までは短期宣教ということ、多くの若者や宣教に関心のある人たちがカンボジアを訪れていましたが、それらのプログラムも休止ということ、これからの宣教のあり方を考える機会になっています。

また、不安定な状況の中で本当の信仰が試されています。新型コロナウイルスの制限がある中で宣教の新しい機会も与えられています。不安な状況で福音に心を開く方もおり、また家の教会は三密の制限を受けることもなく、礼拝・宣教が続いています。皆さまのお祈りを中心から感謝します。（裕三）

トロペアンベン村のソッケーン兄に四番目の男子が無事に産まれました。カンボジアの妊産婦死亡率は非常に高く、妻のサオピア姉は体が弱い

で、ずいぶん心配しましたが守られ、お祈り感謝です。妊娠が分かった時、ソッケーン兄は「欲しくない。またあの育児の大変さを繰り返すのが嫌。また男!」と言い放ち、大喜びの他の家族のひんしゆくを買いました。しかし、生まれた子を見て一緒に喜ぶことができています。乳幼児死亡率も高いカンボジアです。母子の健康が支えられ、その子が神様としっかり繋がることができるよう、また、家族が霊肉の健康が支えられ、神様に喜んでいただける生活を送れるよ



新しい家族を迎えたソッケーン家族とともに

シヤローム祈祷会 宮崎清水町教会 活けるキリストー表教会 名古屋福音教会 西宮祈祷会 礼拝祈祷会
 毎月第四土曜日 2:00pm 毎月第二木曜日 5:30pm 毎月第一土曜日 2:00pm-3:30pm 毎月第二水曜日 10:00am 門戸聖書教会 (JECN) 札幌国際キリスト教
 毎月第一土曜日 2:00pm 毎月第二水曜日 10:00am 毎月第四金曜日 7:00pm 毎月第三金曜日 2:00pm 新下関教会
 毎月第二金曜日 10:00am

うにお祈りください。

出産の翌日、ストウントラエンの町の教会のリーダー夫人、ポッパー姉(四十七歳)が亡くなりました。ストウントラエンの中で一番仲良くしていた友人です。愛想の良い人ではないのですがポソツと本音を言う人で、飾らない人柄が私は大好きでした。共によく祈り、ストウントラエンの文化や習慣も教えてくれました。彼女が難病になつてからは、マッサージをしてあげたりしながら話をし、祈り合っていました。四人の子供の上二人は社会人で自立していますが、三番目のピンピン姉は高三、末っ子のピーピー姉は中三で、コロナの影響で受験がどうなるか日々不透明で不安な中、支えの母親を失いました。家族が神様の支えを豊かに感じることができるようにお祈りください。

カンボジアのコロナ状況(七月下旬時点)は、総感染者数は二百二十五名、死亡者ゼロ、治療中八十二名です。ほとんどが外国からの感染者です。医療レベルが低いので蔓延すれば医療崩壊は直ぐなのです

が、守られていて感謝です。しかし、職を失い補償のない人々も多く、教会も献金が減り経済的に苦しいです。学校は三月から全休で、年末に再開予定と噂されています。テレビ等で授業が一部行われているのですが、貧しい村の子供ではテレビも電気も無い子も多く、中には働き始めた子供もいます。義務教育は名ばかりのカンボジアでは、特に貧しい家庭の子供が学校に帰ってくるのかどうか深刻な問題です。教会学校もわかりです。お祈りください。(ひとみ)

一緒に集まることを やめないで

日本 総主事 佐味 湖幸

ほんの二、三ヶ月我慢すれば、また以前のように集まって宣教祈祷会ができるようになるだろうと高を括っていたのは、今から三、四ヶ月前のこと。しかし、残念なことに新型コロナウイルスの第二波は思っていたよりもずっと早くやってきて、どうも集まれるようになるのは、し

ばらく先のことになりそうです。少なくとも今年いっぱいダメかなど、皆さん腹をくくり始めました。

四月から関東にある五つの宣教祈祷会は全てオンラインですることになりました。そのようなものとはあまり縁のない方々をどう励ましたらいいのか困りました。ある方々は「この際にチャレンジしてみよう!」とすぐに始められましたが、ある方々は数ヶ月経つて、「やはりやってみようか...」と、不安をかかえつつ始められました。電話の声だけでネット会議システムの使い方を教えるのは容易ではありません。「左下のほうにビデオの形をした印とマイクの形をした印がありますでしょ?それをクリックしてみてください」とか言いながら、受話器を通してだけでなく、コンピュータから互いの声が聞こえ、顔が見えたときの感動!そうやって、四月から数ヶ月経って、新たに今月オンラインの宣教祈祷会に加えられた方々が数名おられました。たとえ、ネットを通してでも心を一つにして一緒に主の前

に出、宣教のために祈ることがどんなに尊いことか、また互いの大きな励ましとなるかを祈祷会毎に経験します。

ある祈祷会では若い参加者が次々と奨励の奉仕を引き受けてくれています。ある祈祷会は関東だけでなく、名古屋やアメリカからも参加者があり、また他の祈祷会にはカンボジアから今村夫妻が参加して、働きをお分ちくださいました。九月は新しくOMFに受け入れられた坂西待機宣教師を「招いて」、証しを伺いたいと思っています。次に考えるのはネットでの宣教イベント。来年にでもできるといいなと夢見ています。



六月の臨時日本委員会、全会一致で坂西信悟師をOMF宣教師として受け入れることが決められました。主が新しい働き人を起こしてくださいましたことを感謝します。フィールドに行くまでの準備のためにお祈りください。(佐味)

OMF宣教祈祷会 市川サチャベロフアンブリージョン
 毎月第三水曜日 10:30am, 7:30pm
 コムベンジャト小金井教会
 毎月第二月曜日 10:30am

大阪・昭和聖書教会 東京・板橋祈祷会 久米宅
 毎月第三火曜日 7:00pm 毎月第三金曜日 1:30pm - 3:00pm